

令和2年7月1日14時00分
資料配布 近畿地方整備局

猪名川の水質改善幅が3年連続で全国第1位
～2019年近畿地方一級河川の水質現況を公表～

- ・ 10年前と比べて最もきれいになった川は、淀川水系猪名川(大阪府豊中市戸倉地点)で、3年連続で全国1位を記録
(BOD平均値 H21年:7.9mg/L→R元年:2.7mg/L 改善幅5.2mg/L)。
- ・ 2019年の最もきれいな川は、新宮川水系熊野川(和歌山県新宮市熊野大橋地点)など近畿では4河川。

2019年に実施した水質調査結果に基づき、近畿地方一級河川の水質現況を公表します。主な水質現況は以下のとおりです。

○過去10年間で水質が大きく改善した河川(地点)

猪名川(大阪府豊中市利倉地点 :改善幅 5.2mg/L) → 全国1位
曾我川(奈良県北葛城郡河合町保橋地点 :改善幅 1.5mg/L)

○水のきれいな河川(地点別のBOD年平均水質が0.5mg/L*の地点がある主要河川)

熊野川(和歌山県新宮市熊野大橋地点など)
紀の川(和歌山県橋本市岸上橋地点)
北川(福井県小浜市高塚地点など)
揖保川(兵庫県宍粟市曲里地点など) *環境省の定めるBODの報告下限値(0.5mg/L)

○環境基準(主にBOD)の満足状況

調査地点のうち、約9割の地点で環境基準を満足し、ここ5年間ほぼ横ばいです。

(川や水に関する、特集ページを設けたパンフレットを近畿地方整備局河川部のホームページからご覧下さい。 <http://www.kkr.mlit.go.jp/river/kankyuu/suisitu.html>)

<取扱い>

<配布場所>近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、堺市政記者クラブ、在堺記者クラブ、滋賀県政記者クラブ、福知山市政記者クラブ、舞鶴市政記者クラブ、綾部新聞記者クラブ、京都府政記者クラブ、宇治日刊記者クラブ、宮津市政記者クラブ、兵庫県政記者クラブ、姫路市政記者クラブ、但馬県民局県政記者クラブ、豊岡市政記者クラブ、奈良県政・経済記者クラブ、五條市政記者クラブ、和歌山県政記者クラブ、和歌山県地方新聞記者クラブ、和歌山県政放送記者クラブ、橋本市政記者クラブ、新宮記者クラブ、新宮中央記者会、福井県政記者クラブ、大野市政記者クラブ、三重県政記者クラブ、三重県第二県政記者クラブ、名張市政記者クラブ、伊賀記者会、熊野市記者クラブ

<問合せ先>近畿地方整備局 河川部 河川環境課 課長 藤井 節生
課長補佐 北川 眞一
TEL 06-6942-0608(直通)

水質現況(令和元年 BOD結果 概要)



<配付資料>



近畿管内BOD 代表河川地点

河川名	BOD0.5mg/L以下* 地点
熊野川	熊野大橋、熊野川河口
紀の川	岸上橋
北川	上中橋、高塚
揖保川	曲里、山崎

近畿管内BOD改善幅 代表河川地点一覧

項目	順位	河川名/地点名	BOD(mg/L)
改善幅	1	猪名川/利倉	5.2 (7.9 → 2.7)
	2	曾我川/保橋	1.5 (3.9 → 2.4)

() 内はH21年→R元年結果

熊野川は全国の水質が最も良好な河川
(16河川)にも選定

「近畿1位」の利倉は全国1位

* 環境省の定めるBOD報告下限(0.5mg/L)

配布資料

2019年近畿管内一級河川の水質現況の公表について（概要）

2019年の近畿管内一級河川で最も水質が改善した川は淀川水系猪名川の利倉地点（大阪府豊中市）で改善幅は全国一位を記録

水質が最も良好だったのは、新宮川水系熊野川の熊野大橋地点（和歌山県新宮市）など

1. 令和元年水質調査結果について

＜主要河川の地点別年平均水質＞（パンフレットP5）

○各地点のBOD年平均値で見ると、熊野大橋、熊野川河口（熊野川）、上中橋、高塚（北川）、曲里、山崎（揖保川）、岸上橋（紀の川）が近畿で最も良好な水質（BOD 0.5mg/L）調査結果となった。

＜過去10年間の水質改善状況＞（P6）

○下水道の普及や水質改善の取り組みにより、利倉（猪名川）、保橋（曾我川）、ではこの10年でBOD値が大幅に改善されている。

＜生活環境の保全に関する環境基準の満足状況＞（P6）

○令和元年は、近畿地方一級河川（湖沼を含む）で環境基準のうち主要な指標であるBOD（またはCOD）の基準を満足している地点の割合は、89%の102地点となっている。（環境基準の類型が指定されている115調査地点での調査結果）

- 河川類型指定103地点中、環境基準を満足している地点は101地点
- 湖沼類型指定12地点中、環境基準を満足している地点は1地点

2. 令和元年度ダイオキシン類・内分泌かく乱物質の実態調査結果について

＜ダイオキシン類・内分泌かく乱物質の実態調査結果＞（P7、8）

○令和元年度に実施したダイオキシン類の実態調査では、すべての地点においても水質・底質の環境基準（水質：1pg-TEQ/l 底質：150pg-TEQ/g）を満足していた。

○令和元年度に実施した内分泌かく乱物質の実態調査では、宮前橋（淀川）のエストロンが重点調査濃度を超過しました。

3. 令和元年感覚的な水質指標による調査結果について

＜感覚的な水質指標に基づく調査結果＞（P10）

○「感覚的な水質指標」に基づく調査は、従来の有機性汚濁の指標であるBODだけでなく多様な視点で評価するため、「人と河川の豊かなふれあいの確保」、「豊かな生態系の確保」、「利用しやすい水質の確保」という3つの視点別に住民との協働による調査を実施しています。

- 『人と河川の豊かなふれあいの確保（4段階）』の視点においては、

- A 「顔を川の水につけやすい」
- B 「川の中に入って遊びやすい」
- C 「川の中には入れないが、川に近づくことができる」
- D 「川の水に魅力がなく、川に近づきにくい」

の指標ランクを設定しており、A 「顔を川の水につけやすい」の地点が多かった。

- 『豊かな生態系の確保（4段階）』の視点においては、
B 「生物の生息・成育・繁殖環境として良好」の地点が多かった。

- 『利用しやすい水質の確保（3段階）』の視点においては、
A 「より利用しやすい」の地点が多かった。

4. 水質事故等の発生状況について

<水質事故等の発生状況>（P13）

○令和元年に近畿地方整備局管内で発生した水質事故は73件。水系別では淀川水系の発生件数が32件で最多。事故の種類別では油類によるものが多く、原因別では工場等での操作ミスや、交通事故によるものが多い。なお、平成26年以降は概ね減少傾向であったが、令和元年は対前年比で約50%増加した。

【補足】平成30年の発生件数は、48件

近畿版の公表資料については、下記を参照してください。
(近畿地方整備局 河川部HPに掲載)

<http://www.kkr.mlit.go.jp/river/kankyousuisitu.html>

全国版については、国土交通省 本省HPを参照してください。

http://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kankyo/kankyousuisitu/r1_suisitu.html